

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090900046		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター 麦野		
所在地	福岡県福岡市博多区3丁目15-22		
自己評価作成日	平成29年1月10日	評価結果確定日	平成29年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true">http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: <a href="http://www.r2s.co.jp">http://www.r2s.co.jp</a>
訪問調査日	平成29年1月24日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

食にこだわり、厚切りの鯉節や昆布で毎食出汁を取り、季節の食材を取り入れ、目で、耳で、鼻で、口で、手で食を感じられるように毎食、手づくりで食事を提供しています。庭には畑もあり、季節の野菜を育て、みнадで収穫、調理を行い、食卓を彩ります。行事ではボランティアによるバルーンアートをきっかけに職員もイベントにはバルーンアートができ、地域のイベントに広げていけるような取り組みをしています。年二回の地域交流会には育成会や地域の方々、敬老会には地域の保育園児が訪問していただいたりと地域とのつながりを大切にしながら入居者様が楽しめるような取り組みをしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2ユニット型のグループホーム「ニチイケアセンター 麦野」は閑静な住宅街にあり、入口には季節の花が彩りよく並んでいる。母体法人は全国で介護事業所を展開しており、福岡県内にも多数の系列事業所がある。職員の勉強会及び新人研修などを市の中心にある支店で行っている。当事業所では特に食にこだわっており、毎食だし汁を取り、手作りで食事を提供し、楽しめるようにしている。9月より畑作りを始め、大根、人参、サニーレタスの収穫を利用者、職員ともに心待ちにしている。法人全体での取り組みとして週1回サラービー犬ラブラウドル「マッキー」の訪問があり、ふれあい交流を通して心と体が癒されている。行事ではボランティアの協力を得てバルーンアートの作成を行い、地域のイベントに広げていくよう取り組みをしている。敬老の日には保育園児の訪問があり、利用者と一緒に踊りを楽しんだ。育成会とのつながりもあり、小学校、幼稚園のクリスマス会にも呼んでもらった。今後も益々地域の発展に貢献が期待される事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	平成29年になり、事業所の理念をホーム会議にて見直しを行った。わかりやすいように短文に変更、理念の共用、実践に繋げている。	理念は事業所みんなで、短文でわかりやすく作った。申し送り時に、理念を共有して実践につなげていくようにしている。タイムカード上にも掲げ毎日出勤時に各自が確認しており、月1回のミーティング時には唱和をしている。まだ作り上げたばかりの理念なので、これから根付くようにして行く考えで、管理者が理念に沿っていないと気が付いたときには申し送り時に注意をする。	職員全体に浸透するためにも、玄関、リビングなどにも理念を掲げてみてはどうだろうか。又理念に基づきそれぞれ目標を立ててみることも良いのではないだろうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域行事に参加。、育成会との交流会を年2回開催。敬老会には近所の保育園の園児がお祝いに来てくれるなど交流を図っている。	校区のモデル地区となり、行政と社協の主催で「私もできるケア」と題して公民館で地域活動が開催されている。昨年は参加できなかったが、参加者は社協、民生委員、ボランティア、デイサービス、特養職員等であり、他事業所との関わりや地域との交流を深めていくため次回は出席する予定である。自治会に加入し、校区の文化祭、育成会に参加、献血活動にも協力している。認知症介護相談教室についての知らせを個人宅へ職員がポスティングしている。	今後、行政、社協主催の地域活動に参加し、地域との交流を深めていく事に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政と社会福祉協議会の地域活動に参加予定。できる限りの協力を行っていく。地域の介護保険、認知症の相談窓口となる運営推進会議を通じて、事例発表、認知症の理解、関わり方のお話をする。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催。参加者が増えて地域での役割が担えるように、関係各所に働きかけを行っている。	包括支援センター、町内会長、行政書士などの参加があり、行事報告や現状報告を行っており、町内会長との話し合いの時間も持たれる。議事録は次回の案内と共に家族に送信している。運営推進会議での意見には即対応し、改善しサービス向上に生かしている。会議では地域カフェ、包括支援センター主催の圏域連携会議、医師会主催の多種連携研修会などの情報ももらっている。	運営推進会議の日時、曜日などを変更してみたり、家族会と一緒に日に行うなどして、家族の参加につなげるように試みてはどうだろうか。地域カフェに参加してみて、利用者が一緒に参加できるようになることにも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市、区、包括支援センター、ご家族に運営推進会議のご案内をしている。必要時は連絡、相談を行っており、区役所の窓口にも、出向くようにしている。	運営推進会議の時に家族、市、包括支援センターへ事業所の状況を説明している。会議の案内には課題を書き送付し、相談にのってもらっている。更新申請は行ける時は窓口に出向くようにしている。必要な時は電話連絡をし、何時でも相談に応じていただき、良い関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルを使用して、施設内研修を年2回実施。現在、対象者はいないが、声かけなど身体拘束しないケアができていないのか、振り返りを行っている。	玄関の施錠は行っていない。常に職員が見守りを行い、外に出て行く人がいる時は職員が側に付き見守る。以前に家族の希望、医師からの話もあり、車いすの安全ベルトを使用していた利用者がいた。現在対象者はいないが、管理者による内部研修で、スピーチロックの件などを話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

H29.1自己・外部評価表(ニチイケアセンター麦野)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを使用して、施設内研修を年2回実施。日常のケアで虐待に繋がるものはないか等話し合い、周知徹底を図っている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議に参加して下さっている専門家から定期的に学んでいる。その他、ケアマネジャー研修、グループホームネットワークにて情報を得て、支援に活かしている。	家族会の時に、専門家に講師として立ってもらい定期的に学んでいる。パンフレットは常時用意しており、必要な時は利用者、家族に説明をしている。管理者、職員も制度理解をしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、契約書、重要事項説明書、個人情報取り扱いの覚書等、ご理解頂けるよう説明をしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族会開催、毎月麦野便りを発行、ご家族来訪時に現状報告や相談、ご意向を伺っている。運営推進会議や日頃のコミュニケーションにより意見を頂き、運営に反映させている。外部評価、情報公開にて外部者へ表せている。	年2回家族会議を開催、毎月麦野便りを発行。法人本部から各事業所利用者にアンケートを出し、集計結果が事業所に送られてくる。要望、苦情についての実情、対応を説明している。家族の訪問も二日に1回程度あり、意向を十分に伺い運営に反映させている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回ホーム会議開催、職員全員参加して、研修や統一事項、意見交換等を行っている。会議後にはユニット毎の会議を行い、ケアに反映させている。	月1回ホーム会議開催、パート職員も含め全員で参加し、意見交換を行なっている。出勤時間を30分ずらすなどして、申し送りの準備が充分にできるようになった。会議の後にはユニット毎の内部研修を行い夜勤職員には資料を渡し全員でケアに反映させている。個人面談の機会もあり、話しやすい雰囲気がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内研修、外部研修の参加を推進し、スキルアップの向上に努めている。キャリアアップ制度がある。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集は会社から募集。職員は各委員会活動、行事、レクリエーションを担当して、得意分野を活かせるよう取り組んでいる。研修や資格取得等は職員の協力により勤務調整している。障害者雇用もしており、2名が掃除担当勤務している。	職員の年齢は25歳から55歳と幅広く、障害者雇用もしており、2名が掃除担当勤務をしている。献立、レクリエーション、環境整備などの委員会活動があり、職員は三人で担当している。毎年交代で行い、得意分野を活かしている。実務研修は希望により職員間でシフト調整し、仕事の一環として行く。2階にスタッフルームがあり、休憩もきちんと取れている。	

H29.1 自己・外部評価表(ニチイケアセンター 麦野) 確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年1回施設内研修を行っている。外部研修で人権研修を受けた職員は持ち帰り、施設内研修にて共有している。	管理者が外部研修を受け、施設内研修にて共有している。又実践者研修の一時間の人権研修を持ち帰り、内部研修を行なっている。	外部機関などから学習資料やDVDなどをかりて、内部研修をして見てはどうだろうか。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のホーム会議後に施設内研修を実施している。外部研修に行った職員は会議にて落とし込みをしてもらっている。実践者研修、外部研修は該当者及び希望者を募り、勤務として参加できるように配慮している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	博多区GHネットワークに参加し、研修等を通して他のGHの活動や、ケアの内容を知る機会ができた。今後も継続して参加予定。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、担当CM、病院のSW等から事前に情報を頂き、センター方式を活用、ご意向と共に職員に周知している。ご入居後もご家族、ご本人の要望等を伺い、察知しながら信頼関係の構築に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご本人、ご家族と会い、面談にて困りごとや不安な事への聞き取りを行っている。小さな変化や変更が必要な時等、ご家族に連絡をとり、承諾を得ている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人、ご家族、CMやSWIに会い、状況、状態を十分に把握し、ご本人、ご家族の要望を取り入れて必要なサービスを見極めている。職員とカンファレンスを開催、ケアの統一や対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援の考えの元、日常生活の中で役割を持って頂き、何事も職員と一緒に行うことで信頼関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ定期的現状報告と、電話連絡での相談、報告を行い、面会時にはお時間を頂くことで信頼関係の構築に努めている。ケアプランにもご家族の役割をおき、共に支えていけるようにしている。		

H29.1 自己・外部評価表(ニチイケアセンター 麦野) 確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人、ご家族に確認後、友人知人等が来訪された時は一緒に楽しめるよう、行事のご案内をする、電話をつなげる、ゆっくり過ごせる場の提供をする等馴染みの方々との交流が継続できるように支援している。	友人、知人などが来訪された時は一緒にゆっくり過ごせる場の提供をしている。家族の協力の下、三日に1回自宅に戻り、洗髪、ブロー、化粧して帰ってくる利用者もいて、本人がこれまで大切にしていた事を継続している。以前は墓参りを支援した事がある。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや家事等を実施する時は、入居者間に職員が介入、談笑しながら仲良く過ごせる支援を行い、孤立予防に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時に、今後いつでも相談でき、支援させて頂けることを説明している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、ご本人の思いやご意向の把握に努めている。カンファレンスにて職員間での情報の共有、統一し、ケアプランに反映、実施し、定期的に見直しをしている。	センター方式により、本人や家族の力や希望を引き出すためのツールとして使用している。アセスメントは入居時に管理者と担当職員が関わり、本人、家族、ケアマネ、医師などから基本情報を聞き取りをする。毎日の生活の様子を観察し、カンファレンスにて職員間で共有し、追記は赤字で、日付も書き込んでいる。利用者のサインをチームで見極めることに努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人、ご家族、CM、SW、利用されていた介護サービス事業所等から情報を頂き、センター方式を活用している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式の活用、介護記録、ケアプラン実施表、毎日の申し送りにより一人ひとりの過ごし方や心身の状態等の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を開催し、現状に即した介護計画を作成している。ケアプラン実施表と日常生活支援シートを活用し、ご本人、ご家族、医師、職員の担当等の意見を反映している。	ケアプラン、介護記録は全員まとめてファイルにとじ込み、それぞれケアプランをつけ、実施表をチェックし、情報を共有している。日常生活シートは最初は管理者が作成し、担当者に受け継ぐ。モニタリングは三か月に1回行い、本人の様子、家族の希望を聞きとる。医師からの意見もまず家族に報告し、家族と共にケアプランを育てて行っている。	

H29.1 自己・外部評価表(ニチイケアセンター 麦野) 確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個人の介護記録を毎日記入し、申し送りノートに気づきや統一して個別に実施すること等を記入することで、職員間での情報を共有、実践や介護計画に反映させてケアに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族のニーズに対し、主治医へ相談、訪問看護によるリハビリを行う等のサービスを取り入れている。可能な限り柔軟性を持ち、他サービスの検討に取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の肉屋、魚屋を利用し、安心、安全、新鮮な食の協力を得ている。町内会、警察、消防、地域包括支援センターとの連携をとり、必要に応じて相談している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にご本人、ご家族のご意向により協力病院を決定している。入居前からのかかりつけ医を希望される方は、ご家族の協力にて通院して頂いている。歯科、眼科、耳鼻科は必要に応じて往診依頼をすることができる。	提携医を希望される方が多い。提携医の訪問は月2回。医師とは連携を取り、電話で医師、看護師の支援を受ける事もある。かかりつけ医利用の時は家族と通院してもらう。例外として事業所職員が行く場合があり、受診結果は管理日誌、申し送りノートに書く。歯科、眼科、耳鼻科は必要な時に往診依頼ができる。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制により訪問看護STと契約しており、毎週1回の健康チェック、相談、指導等が行われている。24時間体制での電話連絡の協力を得ている。協力病院の看護師も必要に応じて連絡、相談できている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、入院期間中等に医師、看護師、SW、ご家族、当ホームの管理者、CM間で連携をとり、カンファレンスを開催する等情報交換や退院後に必要なサービスの検討の相談を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、ご家族のご意向を伺い、当ホームでの方針やできる限りのケアの説明後、主治医となる医師に報告、相談している。必要に応じて、ご家族、医師、管理者、CMと早々に話し合いを行い、方針を決めている。医療連携の訪問看護STにも協力を得ている。	基本的には看取りは行っていないが「医師の協力の下できる限りの事はします」と言う事で家族の意向を聞き行っている。24時間対応の在宅の医師と提携医の往診、看護師が毎日訪問し、できる限りの支援を行う。家族と医師から細かい注意をうけ職員に周知するようにしている。	

H29.1自己・外部評価表(ニチイケアセンター麦野)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時は管理者に連絡後、医師、訪問看護師、ご家族に連絡し、指示を仰ぎ、対応している。一人ひとりの病気等を把握、対処法を医師に確認している。施設内研修を年1回行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を中心に、年2回防災訓練を実施している。1回は消防署員立会いのものを行い、指導を受けている。職員は避難場所、経路の確認、連絡、役割分担の決めをしている。地域は運営推進会議にて協力要請している。	年2回実施し夜間を想定して行うことが多い。一回は消防署立ち会いで行なっている。消防署からは三台利用の車いすは一番先に外に出すように言われた。校区の防災訓練には参加しており、地区の防災教室にも参加している。事業所の防災訓練への地域からの参加はないが、運営推進会議で協力要請を行なっている。備蓄品は水、おかゆを3日分用意している。	今後も引き続き地域との協力体制の要請を行い、地域からの参加につなげられるよう期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の性格や好み、嫌がられることを十分に把握し、プライバシー保護に努めている。一人ひとりに合わせた声かけ、対応を行っている。職員が継続できるように、ホーム会議やユニット会議にて意見交換や注意事項として議題に上げている。	個人情報の研修を管理者が受け、内部研修を行なっている。年1回保護トレーニング20のテストが法人で行われ、個人情報及び接遇マナーなどについて各自が研鑽を積み、利用者的人格を尊重し、言葉かけや対応をしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご本人の思い等を引き出し、気軽に伝える環境作りを心がけている。そのためにも信頼関係と会話を大切にしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせた介護計画を作成し、実施に向けている。日常の会話の中で、希望を引き出し、反映できるように支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容を利用している。ご希望により地域の理美容室へ行って頂いている。衣類等は、その日に着る衣類を職員と一緒に選ぶことで楽しみとなるよう対応している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の嗜好を把握し、会社の献立を元に献立委員が献立を立て直している。食事形態は一人ひとりに合わせて提供し、準備、片付け等は職員と一緒にできるだけして頂いている。行事食、出前の日、パンの日等で楽しみとなるよう考慮している。	各個人の嗜好を把握し献立委員が献立をたて調理をしている。ひな祭りの盛り付け、片付けなどを職員と一緒に行う。出前で鰻を取ったり、月1回パンの日を決め好みのパンを選び、スープ、サラダの食事を楽しんでいる。今後はおやつなどを利用者と一緒に作る事も考えている。	

H29.1 自己・外部評価表(ニチイケアセンター 麦野) 確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事形態と摂取量、水分摂取量を提供している。記録に残して、1日の途中で計算し、必要摂取量の確保に努めている。状態により、医師、ご家族に相談、対応している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合わせた口腔ケアを実施している。訪問歯科と連携をとり、往診、訪問診療、指導等を受けている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人に合わせた排泄、誘導、おむつ交換を行っている。記録により、排泄間隔を把握し、自立に向けた支援をしている。記録を活用し、状態によりおむつやパット、パンツの見直し等を行っている。	介護記録票により排泄間隔を把握し、トイレに誘導している。気が付いたことを介護記録に書き込みみんなで共有している。大パッドから小パッドに移行したり、日中はリハビリパンツからパンツにかわった人もいる。本人に合わせた介助を行うことで、自立にむけた支援を行なっている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態は毎日の申し送りにて職員が把握、必要時は医師に相談している。日々の食事、水分摂取量を把握、牛乳、オリゴ糖、ヨーグルト等を献立に取り入れている。体操、散歩等アクティビティも気をつけている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は月～土曜日まで実施、お湯は一人ずつ交換して提供している。お一人週3回は入れるようにしているが、ご希望により回数を増やすことも可能である。拒否あれば時間を置いての声かけや翌日に実施している。	入浴は週2～3回はできるようにしている。お湯は一人ずつ交換し、午後を予定しているが希望により午前中でも入浴できる。シャンプー、入浴剤など希望の物を使用している。皮膚トラブルなどがあつた時は、すぐにみつけ、医師の指示を仰ぐ。男性スタッフに対し拒否がある利用者は女性スタッフが対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や年齢、体調、その日の状態に応じて、日中に臥床時間を設け、休息できる時間を確保している。夜間の安眠に向けて、日中の過ごし方を個人に合わせ、不安が強い方は傾聴する等安心できる対応を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、薬剤師の管理のもと、管理者、CMが説明を受けて、職員全員が周知徹底できるよう、薬表をファイリング、確認している。服薬確認は2名で声出し、飲み込みまで確認している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時にご家族から伺った趣味や嗜好を元に、ご本人の要望に沿って、役割や楽しみを持って過ごせるよう支援している。家事、菜園、貼り絵や塗り絵、散歩など。		

H29.1 自己・外部評価表(ニチイケアセンター 麦野) 確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、外気浴、近所への買い物にいけるよう、支援している。その他の外出はご本人、ご家族の希望がない限り行っては行かないが、ご家族の承諾を得て、外食へ行くことはできる。	事業所側の遊歩道を散歩したり、玄関入口の季節の花をめでたり、広く明るいテラスに出て、畑の大根、人参、サニーレタスの生育を見て収穫を楽しみにしている。個別ケアで職員と一緒に食べたいものを食べに行く事はある。法人の方針で車両の使用ができないため、できるだけ家族に外出の支援をお願いしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理はご家族が行っている。小額はホーム管理にて買い物に行かれる際にお渡しして、ご自分で支払いできるように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を郵送する、電話をかける等、ご要望あればご家族の承諾を得て、支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の共用スペースは大きな窓があり、自然光が入り、日当たりが良い。風通りも良くソファ等にてゆっくり過ごせる空間を設けている。壁には季節の飾りを入居者様、職員の共同で作成し、掲示している。	リビングは大きな窓があり、明るく、穏やかな暖かい陽の光が差し込んでくる。それぞれのリズムで生活ができるよう、広く自由な空間となっている。ソファの場所を変えるなどして、違った雰囲気を作り出すこともある。台所からリビングで過ごす利用者の姿を見ることができ、利用者は歌を唄ったり、トランプ、かるたなどを行い、のんびりと過ごしている。浴室も明るく清潔に保たれている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングはソファを設置しており、テレビを観たり、音楽を聴く、談話をするなど、一人ひとりが好きに過ごせる空間を確保している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に、ご本人の馴染みの物、思い入れがある物、使い慣れた物等を持ち込めるよう、ご家族に説明し、協力を得て安心できる空間作りをしている。	自宅で使用していたタンス、鏡台など馴染の品が持ち込まれ、きれいに整頓されていた。お孫さんのお便り、写真なども飾り付け、楽しげな雰囲気だった。仏壇を置かれていた居室もあった。それぞれ个性的に自宅で過ごしているように居心地良く工夫されていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動の動線上に手すり、浴室、トイレには呼び出しボタンが設置されている。エレベーターが設置されており、洗面台、テーブルの高さに配慮しており、入居者様の自立に向けて過ごせるようになっている。		